

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会

発行人
富 田 英 雄

題字
故 内山岩太郎 筆

神奈川県保育会の皆様に、日ごろから本県の保育行政に多大なるお力添えをいただいております。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、女性の社会進出が進む中、保育所利用児童数は年々増加傾向にあり、保育所の待機児童の増加が大きな社会問題となっております。厚生労働省のまとめによれば、平成十五年四月一日現在で、全国の保育所定員は前年同期より約三万人増えました。が、待機児童の数は前年同期よりも約九〇〇人多い二万六、三八三人となっております。神奈川県全域では、定員は前年同期より約一、七〇〇人分増え、待機児童の数は前年同期よりも約二〇〇人少ない二、九四四人となっております。また、保護者の就労形態の変化とともに延長保育や一時保育など多様な保育サービスへの需要が高まっており、保育所や保育士に対する社会の要請や求められる機能は、今後ますます多様で大きなものになっていくものと思われま

皆様ご承知のとおり少子化の進行は著しく、平成十四年の日本女性の合計特殊出生率は一・三二を記録しています。

「次世代育成支援対策推進法」では、次代の社会を担う子どもが健全に生まれ、かつ、育成される環境を整備するため、市町村及び都道府県と従業員三〇〇人を超える事業者

う一段の子育て支援を推進するため「次世代育成支援対策推進法」と「改正児童福祉法」が公布されました。

「次世代育成支援対策推進法」では、次代の社会を担う子どもが健全に生まれ、かつ、育成される環境を整備するため、市町村及び都道府県と従業員三〇〇人を超える事業者

と定められました。

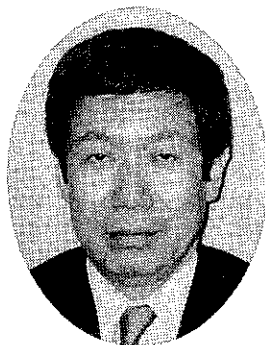
県では、法律の制定を受け、市町村とともに平成十六年度末までに行動計画を策定するとともに、今年度末までに策定する県の総合計画でも子育て支援の取組みを盛り込んでいくこととしております。新しい総合計画は、「二十一世紀を拓く活力と魅力ある神奈川県」の実現を計画の基本目標とし、①地域主権の県政、②県民の目線に立った県政、③新しい時代を拓く県政、という三つの基本的考え方のもとに、計画策定を行うこととしております。子育てと仕事の両立を支えるさまざまな保育サービスが提供され、児童それぞれが適切な保育を受けることができる社会をめざし、計画の中にさまざまな施策を位置付けてその推進を図ってまいりたいと考えております。

県保育会の皆様におかれましても、県の保育行政の推進に對しまして、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

次世代を担う子どもたちのために

神奈川県福祉部部長

田代 球 喜



これまで少子化の原因は、晩婚化にあり、結婚した夫婦の出生児は減少しないと見ていました。国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計においては、晩婚化に加えて、結婚した夫婦の出生児数が減少するという新しい傾向が認められました。こうした中において、このたび、も

に、子育てしやすい環境を整備する行動計画の策定が義務づけられています。

「改正児童福祉法」では、全ての家庭に対する子育て支援を市町村の責務として明確に位置付けられるとともに、待機児童解消に向けた保育計画の策定が五〇人以上の待機児童を抱える市町村の責務として

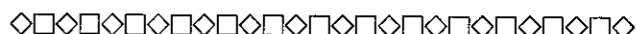
新たな時代の保育を拓く

第37回 神奈川県保育事業大会



保育をめぐる環境は著しく変化しています。社会的役割と期待は、ますます増大しています。「待機児の解消」「子育てと仕事の両立支援」「選択利用にともなう自己評価・第三者評価の導入」「児童虐待の早期発見・早期対応」など多くの課題を踏まえ、今大会は、実践に基づく研究の成果発表と活発な討議等をとおし、より高い保育の質の確保と向上を目指し、また長年に亘って保育につくした功労者を表彰することにより保育事業の発展を図ることを目的として開催されました。

平成十五年四月二十六日(土)、第三十七回神奈川県社会福祉会館に六百人近い参加者が集い盛大に、第一部の式典が、保育会副会長の挨拶で来賓の方々や参加者へのお礼と感謝で開会されました。「花のおさなご」の斉唱。保育士会副会長による児童憲章の朗読に、子どもたちへの正しい愛について考えさせられました。



主催者代表の挨拶で保育会富田会長から「新たな時代の保育を拓く」をめぐり、「一般財源の問題に対する対応」を考え、子どものために親が安心して、子どもの幸せを守るために私たちは、何をすべきか、課題が出されました。続いて六十六名の方が永年勤続で表彰を受け代表の、中保美和子さん、真子展子さんが登壇され表彰状と記念品を受けられました。また保育事業の発展のために貢献された功績を称えて、褒章を北原頼子先生、橋口章公子先生、厚生労働大臣表彰は、霜降靖代先生、島田けい子先生、神奈川県保育賞を下田敏恵先生、橋本葉子・渡邊澄江先生が受賞され、記念品贈呈があり会場は大きな喜びに包まれました。

研究発表 討議

第一会場

保育所における
危機管理について考える

秦野市いまいずみ保育園草山充園長は、秦野市園長連絡会(公立五園、私立十二園)で取り組んだ危機管理は、具体的な形で各々の園にある、危



第二会場

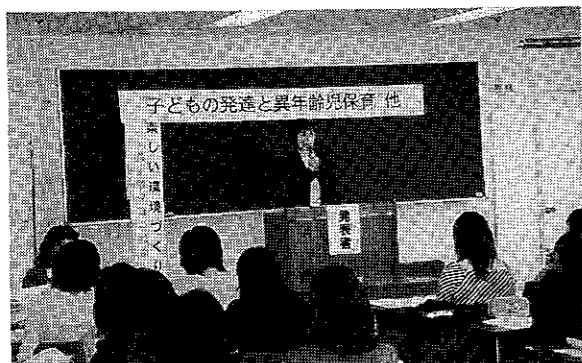
子どもの発達と 異年齢児保育

藤沢市保育士会では「楽しい環境づくり」で、〇歳・一歳児クラスで食事の時の担当制や活動のグループ分け保育の実践報告があった。その中で、子どもの姿やその変化を今まで以上にきめ細かく捉えて考察することができたこと。また、幼児の縦割り保育の実践報告の中では、年上の

子が年下の子を許す気持ちになったり、年下の子が年上の子の優しさに触れることができたとの発表であった。

鎌倉市保育士会では「人と関わりを深める遊び」で、鎌倉の自然を利用した遊びや伝承遊び、物を使った遊び、コミュニケーション遊びの実践報告があった。それらの遊びを継続することで、人との関わりが穏やかに安定する子が見られるようになり、また、「貸して」「どうぞ」「ありがとう」の会話もでき意欲的に遊べるようになった等、子どもの変化が見られたとの発表であった。

綾瀬市保育士会では「病気に負けない身体づくり」で、食事・睡眠・衛生・体力づくりの大切さを確認し、四つのグループで、子どもの理解できる創作童話をパネルシアターやエプロンシアターで作成し、子どもたちと一緒に取り組んだところ、子どもたちも食事に対して関心が高まり、また、手を洗うことも丁寧になり、更に規則正しい生



第三会場

保育内容を考える三つの発表があった。平塚市公立保育研究会は、よりよい保育をめざして「安心できる場所となるためのあんな工夫、こんな工夫」をテーマに子どもの関わりの中できめ細かな対応を心がける。また、環境作りの工夫をしていること、保護者との信頼関係を深める工夫をすることの発表が行われた。

県保育士会保育内容研究会では、なかよしふれあい遊び「心も体もげんきになあれ」をテーマに、ふれあい遊び、わらべうたを通して研究を行い、子ども達はどう変わっていったのか研究発表が行われた。保育士自身が楽しみながら、子どもと接することで、心を安定させ感性を育てていくことを実感することができた。



機への対応策としてのマニュアルや、チェックリストを持ち寄り、タイトル・項目・危機への考え方をまとめたものを発表されました。秦野市内で発生した事件を通して、関係機関との連携や情報入手についての連絡網の確立がなされた等、連絡会の熱心な取り組みが伺えました。

危機管理は、保育活動上想定される全ての面でのマイナス要因を、事前に広く予想し検討し、最小限におさえる為の対応策である事を、改めて認識させられました。

厚木市岡田保育園藤田勝義園長より、園外保育の体験から、リスクマネジメントについて話されました。

福祉施設において、大変未成熟な部門で、ヒヤリハットの原因を分析し、今後の対応策としていく事が大切であると、力強い口調で話されました。

いずれも会場は、真剣に質疑応答が交わされ、意義がある会でありました。

して行くのか、我々現場には重要な内容が基調報告としてお聞きすることができました。

大会二日目は、会場を前日の京都府会館からウエスティン都ホテル京都に移し、今大会から新しい研修方法が用いられた「講義プログラムと分科会コース」と「特別分科会コース」がカリキュラム化されました。講義プログラムと分科会コースでは、午前中に講師の先生方から講義を受け、午後は研究討議がされました。特別分科会コースでは、三会場に分かれ三十の自由なテーマによる意見発表がされ、参加者は自由に会場を移動でき、思い思いの発表を聞くことができました。

本県から、第三分科会に司会者として保育会会長富田英雄氏が、いまいずみ保育園で長草山充氏が「市内保育園でのさまざまな危機管理―考えられる危機と具体的な対応―」をテーマに研究発表されました。特別分科会・C会場に二園の保育士さんが発表さ

れました。おとき保育園は「民生委員さん、ありがとう！(子どもたちが挑戦した味噌づくり)」、いまいずみ保育園は「利用者の満足度を高める解決方法とは？―現実に発生した苦情への対応の仕方―」と各研究タイトルと題され、各会場とも熱心な発表・討議が行われました。

最終日は、会場を初日の京都府会館に移し記念講演として、愛知専門尼僧堂堂長青山俊董氏の「すずやかに生きる―子どもを鏡として―」をテーマに人が生きる大切さや喜びを改めて考えさせられました。

閉会式では、大会アピール趣旨説明に続きアピール朗読、大会実行委員長による地元閉会挨拶、そして次回開催地である群馬県保育協議会会長長谷川昭雄氏より挨拶があり、全国保育協議会副会長松川和照氏の閉会のことばにて第四十七回全国保育研究大会を終了しました。

第47回 全国保育研究大会 開催される

ともに育む子どもの笑顔

変革の時代の保育を考える



第四十七回全国保育研究大会が、平成十五年九月十日、十二日にかけての三日間京都府京都府会館にて開催されました。

京都駅からタクシーで十数分間、鴨川沿いの風景を楽しみながら会場入りをし、受付では京都の女性の先生方がゆかた姿で出迎えて頂きました。この京都らしき風情のある出迎えは、変革と称し揺れ動いている保育業界の方々を

「一時の安らぎの世界」に招いてくれたような感じがいたしました。

今大会のテーマは「ともに育む子どもの笑顔―変革の時代の保育を考える―」とし、全国から二千人を超える保育関係者が参加されました。

近年、保育所の規制改革の議論が進み、待機児童の解消や多様な保育ニーズに対応して行くためのさまざまな制度の見直しや弾力化が進められ、子育て支援がわが国の重要政策課題に位置付けられ、保育士資格の法定化や地域子育てに関わる相談・助言の役割が加わり、中核的な役割を担う保育所への期待が高まっている。さらに、保育の質や信頼感を一層高めていく重要課題として、苦情解決や第三者評価の仕組みの活用などが問いただされている。このような状況を受け、多様な保育ニーズの的確な対応、保育内容の質の向上、保育所への信頼感を一層高める方法について研究を深め協議が行われました。

大会初日は、京都市内保育所職員によるコーラスで始まりました。

開会式では、京都府保育協会会長伊藤義明氏による開会挨拶に続き、大会実行委員の山口幸子氏が児童憲章を朗読され、主催者として全国保育協議会会長佐藤信治氏、全国社会福祉協議会常務理事松尾武昌氏の挨拶がありました。

続いて、保育事業にご尽力された方々への表彰式が行われ、本県から会長特別表彰に一名、会長表彰に六名の功績が称えられました。

次に、ご来賓として京都府知事山田啓二氏、京都市長榊本頼兼氏よりご祝辞を頂きました。

参議院厚生労働委員会委員南野知恵子氏の国会情勢説明、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐中村寛氏の行政説明に続き、全国保育協議会会長佐藤信治氏より「保育をめぐる動向と全保協の取り組み」と題し、保育に求められて行く方向性と全保協が行政等に対しどう対応

「一時の安らぎの世界」に招いてくれたような感じがいたしました。

今大会のテーマは「ともに育む子どもの笑顔―変革の時代の保育を考える―」とし、全国から二千人を超える保育関係者が参加されました。

近年、保育所の規制改革の議論が進み、待機児童の解消や多様な保育ニーズに対応して行くためのさまざまな制度の見直しや弾力化が進められ、子育て支援がわが国の重要政策課題に位置付けられ、保育士資格の法定化や地域子育てに関わる相談・助言の役割が加わり、中核的な役割を担う保育所への期待が高まっている。さらに、保育の質や信頼感を一層高めていく重要課題として、苦情解決や第三者評価の仕組みの活用などが問いただされている。このような状況を受け、多様な保育ニーズの的確な対応、保育内容の質の向上、保育所への信頼感を一層高める方法について研究を深め協議が行われました。

大会初日は、京都市内保育所職員によるコーラスで始まりました。

開会式では、京都府保育協会会長伊藤義明氏による開会挨拶に続き、大会実行委員の山口幸子氏が児童憲章を朗読され、主催者として全国保育協議会会長佐藤信治氏、全国社会福祉協議会常務理事松尾武昌氏の挨拶がありました。

続いて、保育事業にご尽力された方々への表彰式が行われ、本県から会長特別表彰に一名、会長表彰に六名の功績が称えられました。

次に、ご来賓として京都府知事山田啓二氏、京都市長榊本頼兼氏よりご祝辞を頂きました。

参議院厚生労働委員会委員南野知恵子氏の国会情勢説明、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐中村寛氏の行政説明に続き、全国保育協議会会長佐藤信治氏より「保育をめぐる動向と全保協の取り組み」と題し、保育に求められて行く方向性と全保協が行政等に対しどう対応

第44回 関東ブロック保育研究大会 茨城県水戸市

水と緑のいばらき ―― 未来に輝く子どもの力は無限大 ――

オープニングの大洗荒磯太鼓の力強い響き、園児が扮したかわいいうつろ黄門様ご一行の歓迎と、開催地総出の温かいお迎えでした。

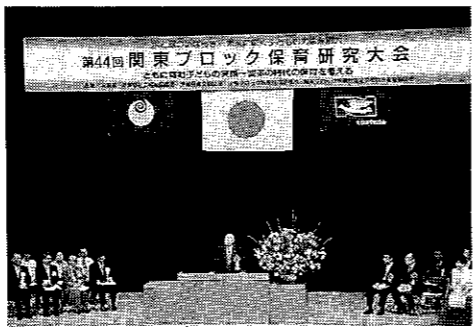
開会式に続き行政説明、基調講演、研究発表が行なわれました。

「保育をもう少し面白く感じるようになるために―保育の質と専門性をめぐる―」と題して行われた基調講演では、保育は子ども

と共にエピソードをつくること」という汐見稔幸先生のお話に引き込まれながら、ますます求められる保育の質と専門性を考えさせられました。

また、長野県の池田町保育園連絡協議会会長で愛染保育園園長でもある田中孝氏による研究発表は「利用しやすい保育園、よりよい子育ての環境を求めて」というテーマでしたが、地域ぐるみで力を合わせ子育てに取り組む大変素晴らしい保護者会活動は、参加者を元気づけてくれました。

今大会から日程が二日間に短縮になったこともあり、大会初日に大会決議宣言も次回



二日目は一〇九の分科会で熱く発表や討議が行われました。保育をとりまく財政構造改革や規制改革等多くの議論なされる中、保育所は何のためにあるのかを保育の原点に立ち返って様々な方向から考えられています。各発表や意見の中で、保育所・保育士の専門性のパワーアップの必要性が浮き彫りにされ、我々に課せられていると痛感させられた機会でもありました。

本県からは第四に秦野市保育園園長連絡会、第九に鎌倉市保育士研究会が発表を行いました。



市・町児童福祉担当課長との連絡協議会

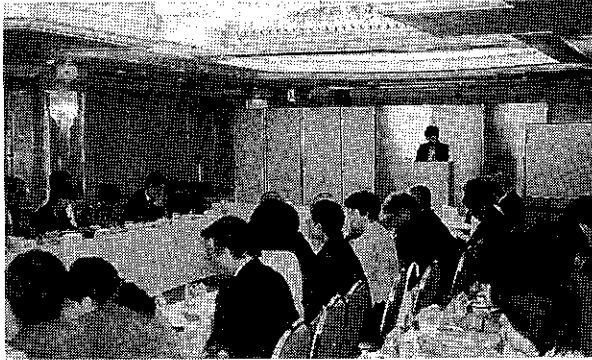
鈴木 源 二

今回で十三回目を迎える連絡協議会は今年、全国社会福祉協議会の児童福祉部の島村糸子部長をお迎えして「新しい保育所像を考える」と言うテーマで講演をいただきました。後質疑の予定で行いました。参加者は十三市町の課長と保育会委員三十二名そして、来賓として神奈川県から齋藤児童福祉課長をはじめ四名の方の出席をいただきました。

第一部の講演では、流石に国のいろいろな会議や委員会を傍聴等されているだけあって詳しい話をされました。講義の内容は左記のとおりです。

一、子育て環境の変化
二、子育て支援システム改革の方向性

三、保育をめぐる状況と課題
そして本題の「新しい保育所像を考える」と進みました。
はじめに、保育所保育の特



性や、保育所の今までやってきた社会への影響などを考へ、もう一度保育所とは何なのか、今保育所に求められているものを確認しなくてはならないということから入りました。

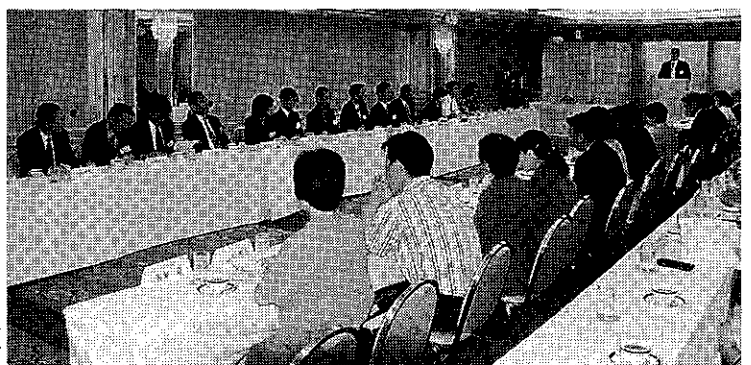
二番目に次世代育成支援対策推進法の中で保育所の位置づけや、社会全体（企業も含め）としての子育ての支援推

進をして行かなくてはいけないという事でした。待機児童がいる市町村では行動計画等が進められているところだと思えます。しかし、この政策の一番の問題点は財源の問題だと思えます。その点を注目していかなくてはいけないと思いました。

三番目に現状として待機児童の問題や少子化の問題です。待機児童については、皆様ご承知のとおり、都市部の市町村に集中して四千人以上います。また、幼保の一元化については、少子化に伴い過疎の地域は当然検討されている問題だと思えます。これらの現状を受け止めて解決していくのは、まさに認可保育所の使命だと思えます。コスト論だけでなく保育の質にこだわりこの問題を解決していかなくてはいけないと思えます。最後に、新しい保育所像を考えるでは保育所機能の固有性・専門性を高めると言うことをいわれました。これは、我々認可保育所は幼稚園や企業を見るのではなく、児

童福祉の原点に返り、自分自身をしっかり見つめ足元を固めることだと思えます。そのためには、地域との連携や家庭保育（子育てサロン等）への支援・アドバイス等を展開して行くことも必要です。また、私たちがもっとも苦手としている組織作りの重要性

についての話をいただきました。このことは、今回の講演で一番重要なところだと思います。これまで、施設運営やサービスマネジメントが定められているが、それ以上については組織の自主性に委ねられているのが現状です。税金でまかなっている施設はとくに社会の変化に敏感に反応しなくてはいけないとも言われました。したがって、運営の近代化やサービスマネジメントの充実のためには、苦情解決や自己点検・第三者評価など何でやらなくてはいけないのか？はつきりと理解したうえで改善点を明確にしている必要があると言われました。社会環境の変化に対応するために内部の組織作りが必



要です。それは、複雑な子育て環境の変化に保育園として適度できる組織体を作り上げることです。保育士の能力を最大限に引き出すと共に園として組織能力が発揮されなくてはならないのです。それから、最後に感じたことは地域の園長会や県保育会・全国保育協議会などの組織も同じように組織の能力を発揮していかなくてはいけないということとを痛感しました。

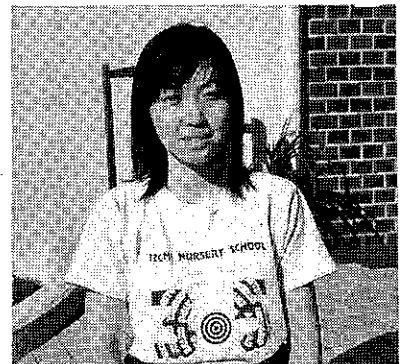
新任保育士研修会

平塚市いずみ保育園 成 松 由 季

県保育会が主催する新任保育士研修会が行われ、参加させていただきました。

まず、神奈川県保育会会長の冨田英雄氏の「新任保育士に求められるもの」の講演では、保育士になるにあたって、自分の得意とするもので子どもを引きつけるテクニックや笑顔を絶やさずにいること、背中を目をつけて周り全体を見る事が出来るようにすることなどの必要を伝えてくださいました。また、子どもの叱り方について、短い叱言でその後には優しい一言、そしてぎゅっと抱きしめてあげ、根気よく毎日くりかえして指導することの大切さを教えていただきました。そして、子どもたちにとって先生は神様であり、「私のいうとおりの来れば間違いありません」と胸を張って言える保育士になれるようにというお言葉を

いただきました。次に、「身近な物を使った表現あそび」というテーマでセシリア女子短期大学教授大谷純一氏の実技指導がありました。身近にある楽器や新聞紙を使って自由な表現を楽しみ、一つのものからいろいろな遊びへと発展できるおもしろさを知ることができました。午後は、「子どもの心を受け止めた保育を」というテーマで、東京成徳短期大学教授の今井和子氏の講演がありました。ここでは、子どもの言葉と心は一体であり子どもは思ったことをそのまま出すので、日頃の子どもの言葉にしっかりと耳を傾け、心の世界をさぐり、表現意欲を育て、内面を大切にしていくことの必要を覚えていただきました。また、子どもは心が動いて行動につながるの、ただ



注意をするのではなく、「なぜ?」「どうして?」を考え、子どもの気持ちを代弁してあげる事の大切さ、怒ることと叱ることの違いについても教えていただきました。

今までの保育の中でたくさん反省がありますが、これからも子どもたちと過ごしていく中で一日一日子どもとの関わりを大切にし、信頼関係を築いていきたいと改めて感じることでできた研修でした。

平成十五年六月二日(月)

神奈川県社会福祉会館

四階 研修室

二階 ホール

参加者 七十三名

中堅保育士研修会

相模原市立相模原保育園 田 中 春

子育てとは、家庭そして地域社会の中で、子どもに人を感じる事、人と関わる心地よさを教えていくことだということをお出しされる研修でした。乳幼児期に、様々な形の愛情を受け、人間関係の心地よさを知ること、将来、人とのコミュニケーションがうまく図れる大人となる。つまり、乳幼児期に、愛され、信じてもらう経験をしなないと、人を愛し、信じることはできないという話は、深く印象に残りました。

子育てに対する考え方の変化や核家族化、少子化など環境の変化は、保育者として日々子どもと向き合う中で、様々な場面で感じています。本来、人間関係の心地よさを学んでいく場所は第一に家庭であるべきなのですが、様々な事情から家庭に求めることができない現代では、保育者



との関わりも非常に重要であることを改めて感じました。子どもが、先生は自分のことを理解してくれている、信じてくれていると感じることは、子どもが自身を信じ、そして友達を信じる第一歩となります。子ども達一人ひとりに「私はあなたを見ていますよ」「信じているよ」という気持ち

トピックス

きたいと強く思いました。また、子どもにとって保護者と保育者との間に信頼関係があると感じられることは、とても嬉しいことであり、より一層保護者との信頼関係を保てるよう努力していきたいと思えました。

子どもとの関わり、保護者との関わりなど、まだまだ迷ったり悩んだりすることが多い毎日ですが、その時代をいきいきと生きようとする子ども達を育てる保育者という仕事の重さを再認識し、保育者として、大切にしていけるべきものを改めて見つめなおせた研修となりました。

平成十五年九月十七日(水)
川崎医療福祉大学
佐々木正美 教授
神奈川県社会福祉会館
参加者 百五十四名

佐々木先生には平成十六年度の講演のお願いをしました。二〇〇四年九月十四日(火)の予定です

県保育会のホームページを十一月に更新しました。各地域の委員さんから、すでにアドレスをお聞きかと思えます。ぜひ、アクセスしてみてください。また、掲示板についても会員の方たちの情報交換の場として利用できるようにしますので後日、アイディとパスワードを各園に送りますのでご利用ください。ご意見等は何でもメールでお出しください。

ホームページアドレス
<http://www.hoiku-kanagawa.jp/index.html>

メールアドレス
kenho@hoiku-kanagawa.jp

今後、会員の皆様方のメールアドレスを事務局までお知らせいただければ、県保育会からの連絡やお知らせ等メールにて送らせていただきます。よろしくお願いいたします。なお、ウイルス等のセキュリティについては各会員で十分にお願いたします。

平成十六年度・保育対策関係予算概算要求がまとまる
次世代育成支援の流れの中で保育対策関係予算は、十五年度予算比四・七%の増額で要求

編集後記

今、保育園は、社会の注目を浴びて、時代の変動にゆらいでいます。

平成十五年四月からは、広報部員も、部長を始め、多くのメンバーが入れ変わりました。新しい委員の感性で、「保育神奈川」を発刊してまいりたいと思います。

保育会が、情報発信の基地としての役割を担っている事を再認識して、できるだけ多くの保育の諸情報を提供して行けるよう努力してまいります。

会員の皆様も、子どもの最善の利益を優先した保育をされている園やその他の情報がございましたら是非お寄せください。心からお待ちしております。

サンワールドは、安心と優しさをお届けします。

人間形成の上で、最も大切な時期にあるお子様の笑顔を守りたい。そんな願いから、安心して召し上がっていただけるお菓子・食品を私達はご紹介しています。人気のカルシウム・鉄シリーズ商品を始め、アレルギー用除去食品まで、豊富な品揃えで皆さまからのご注文をお待ちしております。また、一袋単位からご購入頂けますので、どうぞご安心してご利用ください。先ずはお気軽にお問合せください。



お問合せ先
株式会社サンワールド本社:埼玉県久喜市 フリーダイヤル 0120-18-5665
神奈川支店:横浜市栄区元大橋1-16-12 11-101 045-895-2490



※ 昭和63年(1988年)から
保育園様に納品中
少量添加物の食品を
選択してお届け

(有)カシュウマ

〒252-0813 神奈川県藤沢市亀井野2丁目3-10
電話 0466-82-6401 FAX 0466-82-1278
卵・等除去お菓子・防災用品・調理器具・取扱い

